

令和4年度「全国学力・学習状況調査」の結果 －分析から見えてきた成果・課題と今後の取組について－

区 名 東淀川区
学 校 名 大阪市立東井高野小学校
学校長名 木村 憲次

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、令和4年4月19日（火）に、6年生を対象として、「教科（国語・算数・理科）に関する調査」と「児童質問紙調査」を実施いたしました。

大阪市教育委員会では、保護者や地域の皆様等に説明責任を果たすとともに、より一層教育に関心をお持ちいただき、教育活動にご協力いただくため、各学校が調査結果や調査結果から明らかになった現状等について公表するものとしています。

本校でも、調査結果の分析を行い、これまでの成果や今後取り組むべき課題について明らかにしてまいりましたので、本市教育委員会の方針に則り公表いたします。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。

1 調査の目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 調査内容

(1) 教科に関する調査

- ・国語
- ・算数
- ・理科

(2) 質問紙調査

- ・児童に対する調査
- ・学校に対する調査

3 調査の対象

- ・国・公・私立学校の小学校第6学年の原則として全児童
- ・学校では、第6学年 56名

令和4年度「全国学力・学習状況調査」結果の概要

国語では大阪市平均より+1.0・全国平均より-0.6ポイント。算数では大阪市平均より+3.0・全国平均より+1.8ポイント。理科では大阪市平均より+4.0・全国平均より+0.7ポイント。平均無答率は、国語は大阪市より1.2ポイント、全国より2.1ポイント高く、算数は大阪市より0.7ポイント、全国より0.9ポイント高く、理科は大阪市より1.0ポイント、全国より1.3ポイント低い。平均正答率は3教科とも高く、全国でも算数と理科は高かった。

児童質問紙では、自尊感情や自己肯定感などには課題が見られる。また、学習についても、宿題はしているが家で学習の計画を立て勉強することや予習・復習などにも課題があり、学校と家庭との連携が必要である。

分析から見えてきた成果・課題

教科に関する調査より

〔国語〕学習指導要領の内容「我が国の言語文化に関する事項」「話すこと・聞くこと」「読むこと」については全国と比べ高かったが、「言葉の特徴や使い方に関する事項」「書くこと」については課題がみられる。今後、さらに記述することや資料を使う説明など「主体的・対話的で深い学びの推進」を推進していく必要がある。

〔算数〕学習指導要領の内容「数と計算」「図形」「変化と関係」「データの活用」全てに全国と比べ高かった。今後、データの適切な処理や理由、求め方を書くこと、文章を読み取る力につける必要がある。

〔理科〕学習指導要領の内容「A区分」「B区分」について全国との差は小さい。今後、器具の正しい使い方や実験の記録のしかたなど「知識・技能」について、取り組む必要がある。

質問紙調査より

「学校に行くのは楽しい」に肯定的な回答は70.4%で大阪市・全国より低い。さらに、「自分には良いところがある」では「当てはまらない」の回答が大阪市・全国より多く課題である。今後も自尊感情や自己肯定感など、あらゆる機会を通して高めていく必要がある。

学習については、「家で、自分で計画を立てて勉強をしている」に肯定的な回答は61.1%で、全国の71.1%より低い。さらに、「読書は好きですか」も68.6%で全国の73.1%より低い。今後、「ブロック化による学校支援事業」の新聞の活用や家庭学習の充実について取り組みを推進する。また、「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができますか」に肯定的な回答が69.2%で大阪市・全国より低く、授業での取り組みが必要がある。

今後の取組(アクションプラン)

- ・すべての学習において子どもが考え、議論する学習を多く取り入れるとともに、自分の考えをまとめたり要点を簡潔に書けたりする「主体的・対話的で深い学び」を取り入れた授業の推進を図り、論理的思考の育成をする。
- ・すでに取り組みは推進しているが、一人一台端末やデジタル教科書など更なる活用を充実させる。
- ・「ブロック化による学校支援事業」の新聞の活用と家庭学習(自主学習ノート『プラスノート』)の充実に取り組む。
- ・自尊感情や自己肯定感については、たて割り班活動や多様な体験活動など、あらゆる機会を通じ高めていく。
- ・令和7年度より全市で実施の「総合的読解力育成カリキュラム」を積極的に取り組む。

【 全体の概要 】

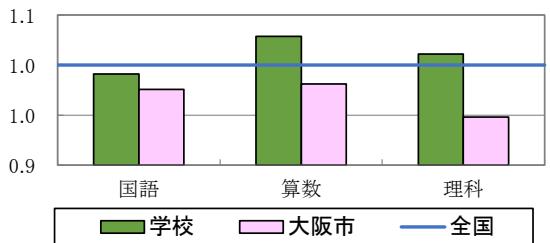
平均正答率 (%)

	国語	算数	理科
学校	65.0	65.0	64.0
大阪市	64.0	62.0	60.0
全国	65.6	63.2	63.3

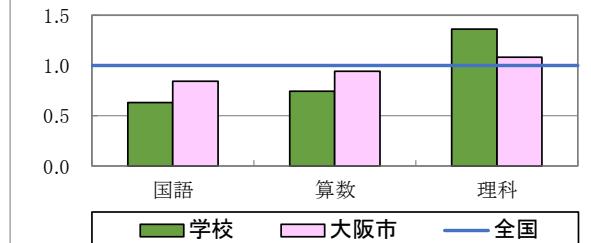
平均無解答率 (%)

	国語	算数	理科
学校	3.6	2.6	4.9
大阪市	4.8	3.3	3.9
全国	5.7	3.5	3.6

平均正答率(対全国比)



平均無解答率(対全国比)



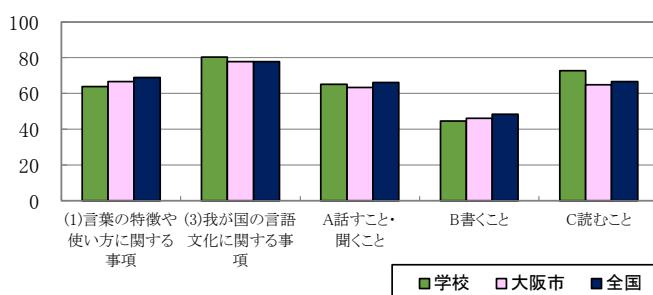
【 国 語 】

学習指導要領の内容	対象設問数(問)	平均正答率(%)		
		学校	大阪市	全国
(1)言葉の特徴や使い方に関する事項	5	63.9	66.7	69.0
(2)情報の扱い方に関する事項	0			
(3)我が国の言語文化に関する事項	1	80.4	77.8	77.9
A 話すこと・聞くこと	2	65.2	63.4	66.2
B 書くこと	2	44.6	46.0	48.5
C 読むこと	4	72.8	65.0	66.6

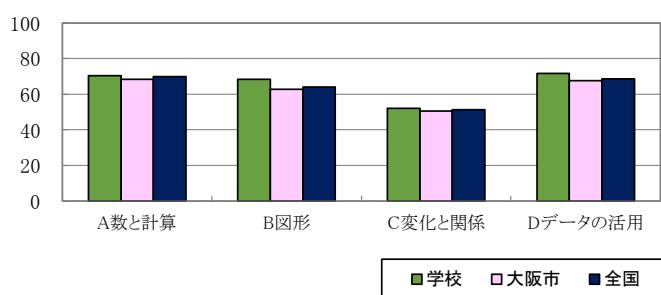
【 算 数 】

学習指導要領の領域	対象設問数(問)	平均正答率(%)		
		学校	大阪市	全国
A 数と計算	6	70.3	68.4	69.8
B 図形	4	68.5	62.8	64.0
C 測定	0			
C 変化と関係	4	52.2	50.5	51.3
D データの活用	3	71.7	67.5	68.7

国語 領域別正答率(学校、大阪市、全国)

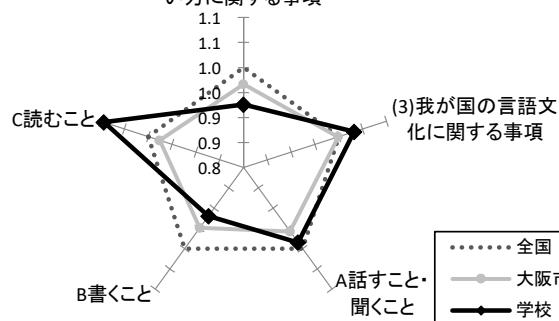


算数 領域別正答率(学校、大阪市、全国)



国語 領域別正答率(対全国比)

(1)言葉の特徴や使い方に関する事項



算数 領域別正答率(対全国比)

A数と計算

Dデータの活用

B図形

C変化と関係

A数と計算

B図形

C変化と関係

Dデータの活用

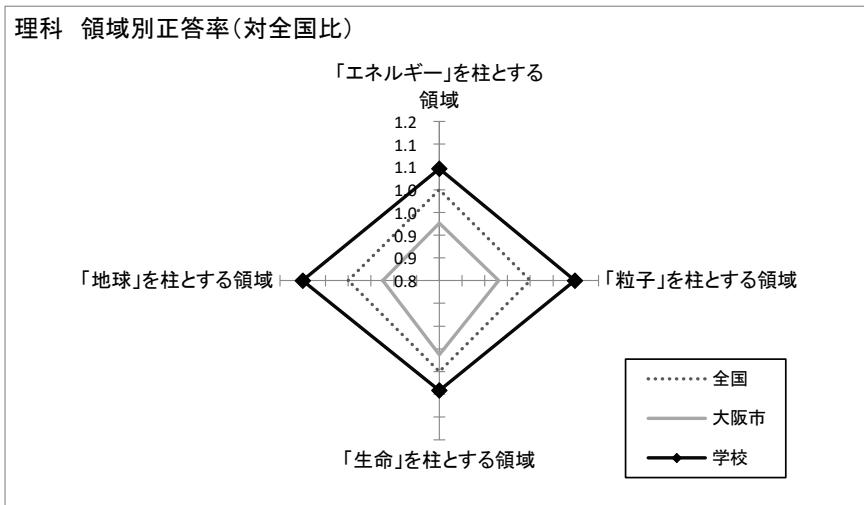
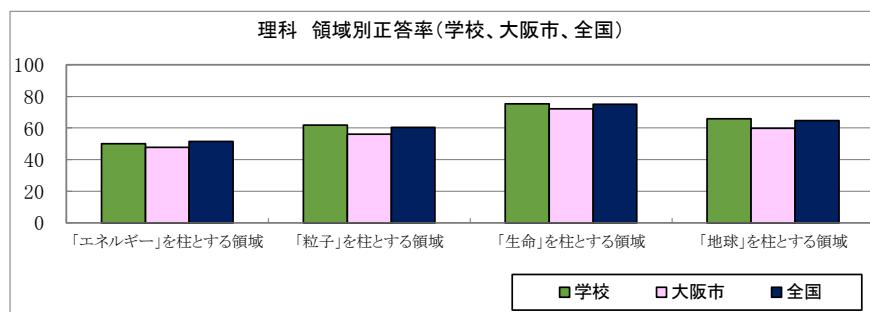
全国

大阪市

学校

【 理科 】

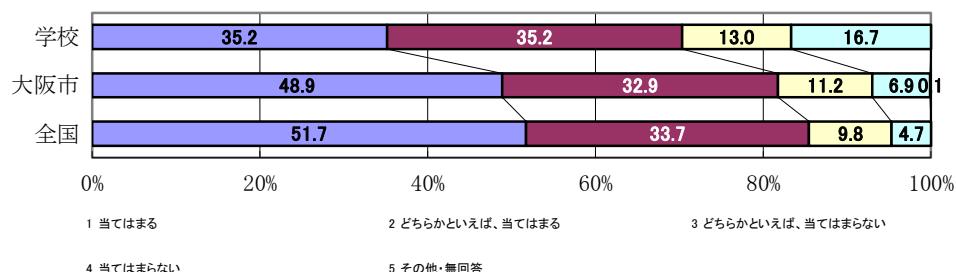
学習指導要領 の区分・領域	対象 設問数 (問)	平均正答率(%)			
		学校	大阪市	全国	
A 区分	「エネルギー」を 柱とする領域	4	50.0	47.8	51.6
	「粒子」を 柱とする領域	5	61.7	56.2	60.4
B 区分	「生命」を 柱とする領域	5	75.2	72.2	75.0
	「地球」を 柱とする領域	5	65.7	59.7	64.6



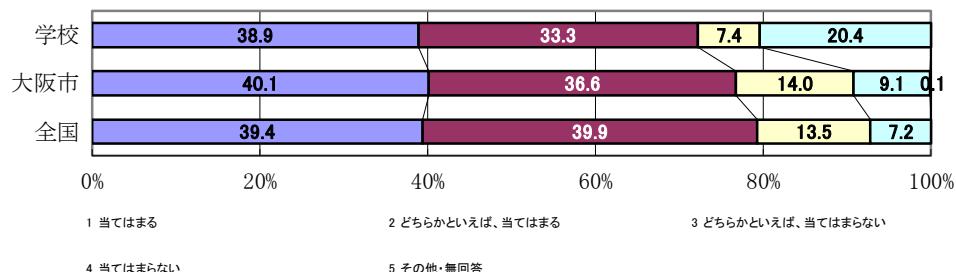
児童質問紙より

□1 ■2 □3 □4 □5 ■6 ■7 ■8

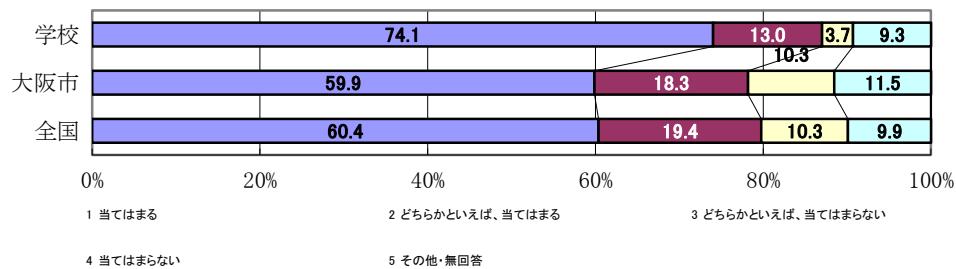
質問番号
質問事項
16
学校に行くのは楽しいと思いますか



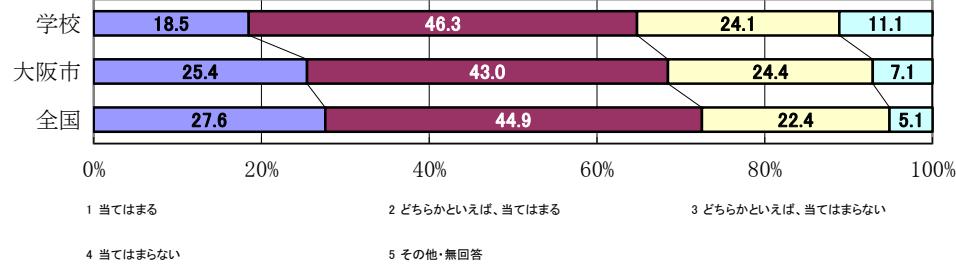
7
自分には、よいところがあると思いますか



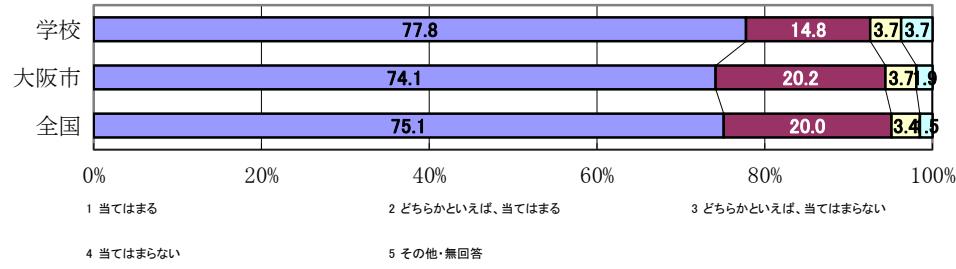
9
将来の夢や目標を持っていますか



11
難しいことでも、失敗を恐れないで挑戦していますか



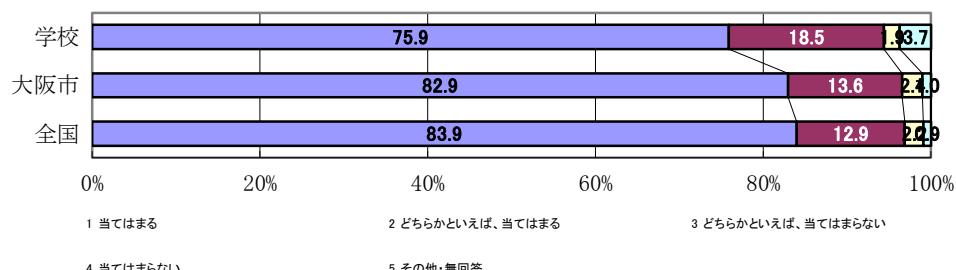
15
人の役に立つ人になりたいと思いますか



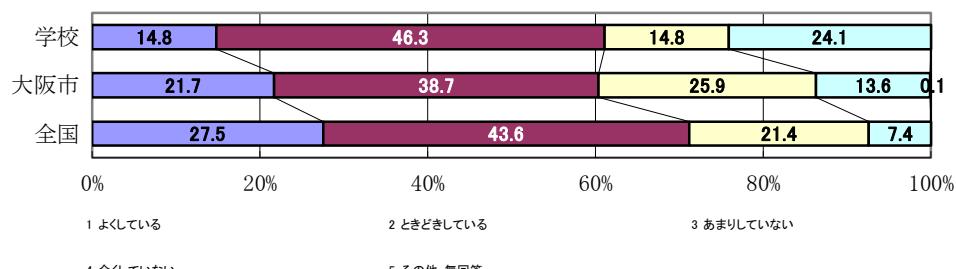
児童質問紙より

□1 ■2 □3 □4 □5 ■6 ■7 ■8

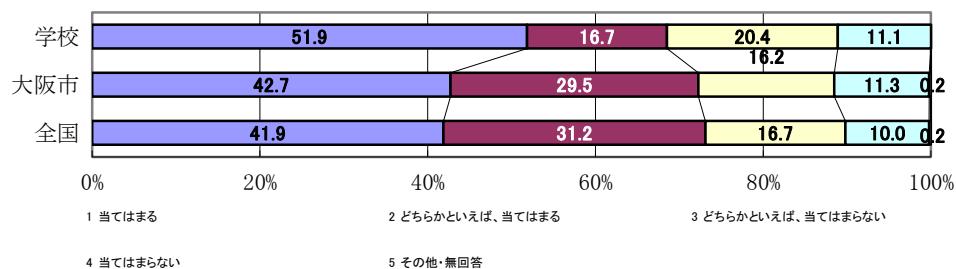
質問番号
質問事項
13
いじめは、どんな理由があつてもいけないことだと思いますか



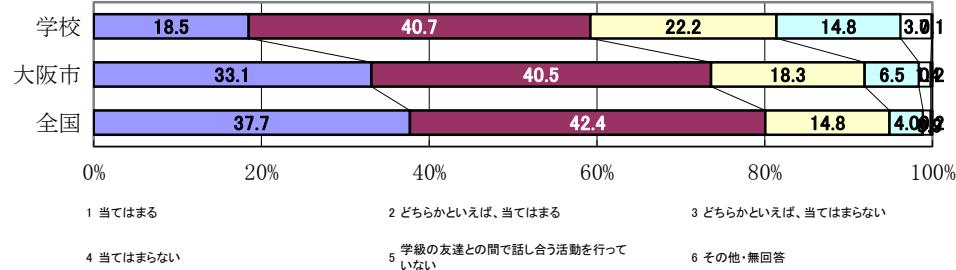
20
家で自分で計画を立てて勉強をしていますか(学校の授業の予習や復習を含む)



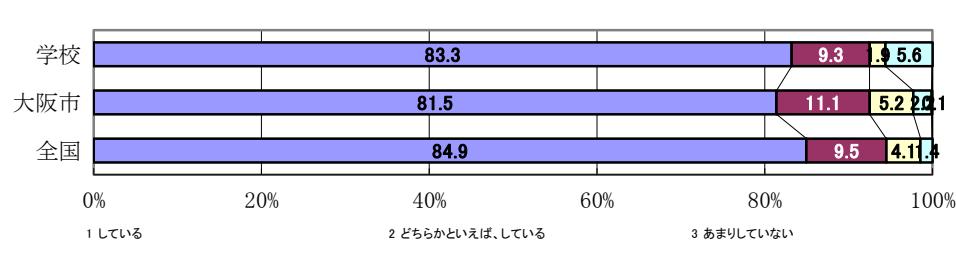
26
読書は好きですか



43
学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか



1
朝食を毎日食べていますか



学校質問紙より

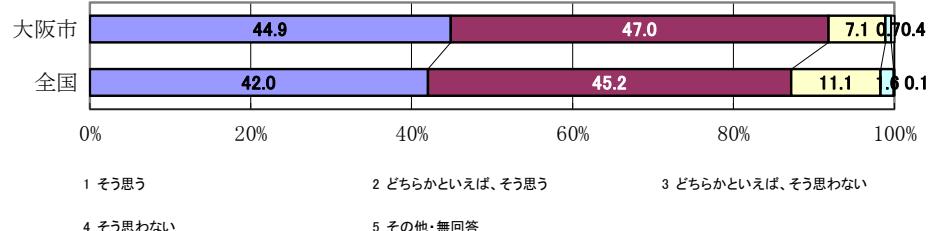
□1 ■2 □3 □4 □5 ■6 ■7 ■8 ■9 ■10

質問番号
質問事項

7

調査対象学年の児童は、授業中の私語が少なく、落ち着いていると思いますか

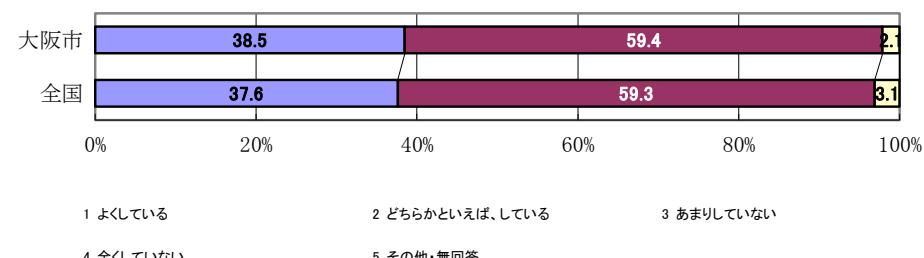
学校 「そう思う」を選択



36

調査対象学年の児童に対して、特別の教科 道徳において、児童自らが自分自身の問題として捉え、考え、話し合うような指導の工夫をしていますか

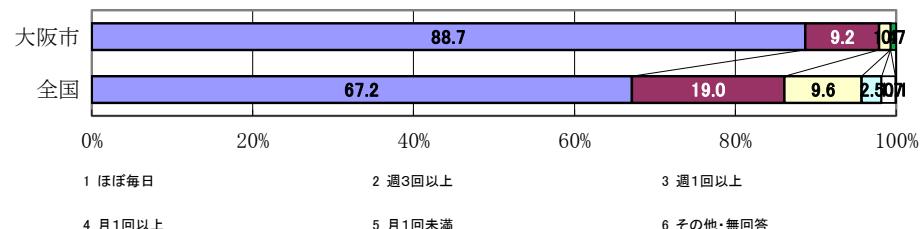
学校 「どちらかといえば、している」を選択



56

前年度に、教員が大型提示装置等(プロジェクター、電子黒板等)のICT機器を活用した授業を1クラス当たりどの程度行いましたか

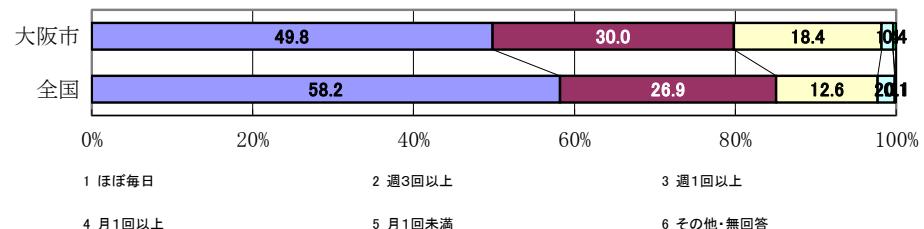
学校 「ほぼ毎日」を選択



59

調査対象学年の児童に対して、前年度までに、一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器を、授業でどの程度活用しましたか

学校 「ほぼ毎日」を選択



14

ICTを活用した校務の効率化(事務の軽減)に取り組んでいますか

学校 「どちらかといえば、取り組んでいる」を選択

